

# 北杜高3年3組が卒業文集

この1年間の思い出や気持ちを未来に残そうと、県立北杜高校3年3組の生徒たちが、卒業文集「北杜高校3年3組の本」(百年書房)を自費出版した。日常生活をテーマに、書きためてきたエッセー約100本を1冊に収めた。1日の卒業式の後、一人一人に手渡される。

【藤沢志保】

## 最後の1年思い出に

担任の千野政寿教諭(43)は昨春、文集を出版してみようと生徒に提案。「高校3年生というドラマチックな1年を何か形にできないか」との思いからだ。最近では卒業文集を作るクラスが減り、当初、生徒の反応も「面倒だ」などと芳しくなかった。千野教諭は、「今の気持ちや考えを率直に書けばいい」と助言。書き慣れてきたこともあり、生徒たちの言葉遣いや読みやすさにも「成長がみえてきた」という。

本は新書型で、166ページ。生徒は、部活動や学校行事、「3組のことが好き」といった個別の題材に沿ったテーマと、自由テーマに取り組んだ。1テーマあたり600〜800文字程度にまとめ、1人で計3本のエッセーを書いた。

「北杜高校3年3組の本」の表紙には33人の生徒と担任、副担任のイラストが描かれている。

北杜高校3年3組の本  
平成27年度



33人の泣いて、笑った。

「私の昼食」をテーマに、弁当を作る父や家族への思いを書きつづった浅川奈那歩さん(18)。「休みなく働きながら支えてくれる両親に感謝したい」と話す。東京都内の専門学校に進学し、ゲーム制作に関わる勉強をする山寺裕也さん(18)はスマートフォンなど身近な技術について考察した。

「普段は口にしないことを書いた。クラスの人の本を読み返して、あの時こんなことを考えてたんだな、と改めてくれたら楽しい」と笑う。

情報ビジネスを学ぶパソコンの扱いに慣れた雨宮莉緒奈さん(18)と坂本あゆみさん(18)は、手書きの原稿を編集する作業を担った。「最初は本当に本になるのか不安だった」と雨宮さん。「でも、ようやく形になってものすごく達成感がある」と坂本さんが言い、2人で喜んだ。

「3組のことが好き」のテーマで、村松嗣友さん(18)はクラス全員の名前を挙げ、一言ずつ友人を紹介した。「3年3組は個性豊かな人ばかりで、一人一人の良いところをもっと考えたいと思った。みんなと過ごせた高校生活はとても充実していた」と振り返った。



文集づくりに取り組んできた3年3組—北杜市長坂町沢沢の県立北杜高校で